

はらいせに『オルグ』を称し、庁舎のガラスをぶちこやし逃げかえる。

昨日朝、八時すぎ、品川・田端両区より出発した「動労青年部オルグ団」は、東京地本に結集し「さざなみ5号」に約170名、「あやめ3号」に約200名、「わかしあ7号」に170名が分乗して、それぞれ館山、成田、勝浦支部に「オルグ」と称し、動労千葉破壊のための不法乱入をはかったが、各支部役員・活動家・組合員の怒りにもえた正義の反撃の前に向らなすすべもなく、はらいせに庁舎のガラスをぶちこやし、それに対するわれわれの当然の反撃が開始されるや仲間を見捨ててほうほうのこいでやっとな国駅まで逃げ帰り、うちひしがれた様子で東京地本に引き上げていったのである。

成田支部

当局に頼みこんで 仲介を申し入れ

成田着10時48分の特急で中泉ら先頭に約20名が下車。二階乗務員詰所に結集した支部組合員の気迫にあざれてやっとなさ一階廊下に到着したのが11時20分。成田青行隊の阻止線が固くて破れないと思ひ知るや、またもや当局に泣きついて、ピケを解かせてくれ、役員を呼んで来てくれ、と仲介役を区長に頼み込む中泉の腰ぬけぶりに、さすがの区長もビククリ、せつかくの頼みごとをわった。12時30分、ふところ深く引き込んだのを見はからい津田沼駅に待機していた支援部隊が一班150名が成田方向へ向かった。この動きを県警からの通知で聞いた中泉隊長は一瞬顔青ざめ、ソワソワし出し、成田からとにかく、脱出をとばかりに求めた。13時18分発の特急に大急ぎで部隊をつめ込み、同一髪でハサミ討ち全滅をまめがれ、なんとか千葉を脱出、一先錦糸町までスットンできた。

館山支部

トリコになったオルグ団、つぎつぎと自己批判

館山着11時32分の特急で小西らを先頭に約170名が下車。館山運転区に到着した「破壊集団」は、ぬこなで声で庁舎に近づくと、支部執行部を先頭に全員怒りの追及にタジタジ。ここありを見て追撃の支援部隊が二班150名が津田沼駅を出発。その内「本部の今井中執から支援が向ったから引き上げるとの連絡が入ったので帰る」と言って、何もやらないうちに14時の急行に乗って逃げ帰る。ところが可愛そうに途中この列車

そのものが壊れさかしてしまつたのは悲劇であつた。走る列車の中で、千葉駅まで延々一時間にわたつて激しく追及し弾丸逆オルグ。全員自らの誤りを認め、パスを呈示し氏名所属電話番号に至るまで自状。「すみませんでした、何も知らさぬないで来たが、こんなやり方は疑問に感じてきた」ともう絶対に来ませんと昨日錦糸町で千葉の人たちに暴行をふるつた事を自己批判します」等々、完全にガタガタになつてしまつたのである。

勝浦支部

破壊集団が、はらいせに庁舎のガラスを破壊

勝浦着11時54分、特急わかしあ7号で約150名が到着。先着の16名と合流し、170名で来る。12時10分、到着するやいなや玄關のガラスを5、6枚を割る。先頭に佐々木・南口・田村など礼つきの暴力分子が立って指揮。つぎつぎと庁舎周辺のガラスを破壊。これが「オルグ」らしい。彼らは、このようなコトをおどしを背景に「話し合い」を要求してきた。もちろん拒否。鈴木瑞志を先頭に「本部・革マル」は、こそくにも「例の自己批判書」を返し